

## 第 7 回 SG 伝熱管 ECT 検討会 議事録

1. 開催日時：平成 23 年 10 月 17 日（月）13：30～15：30

2. 開催場所：（社）日本電気協会 4 階 D 会議室

3. 参加者（順不同，敬称略）

委員：坂東主査（日本原子力発電），越智副主査（関西電力），秋山（四国電力），泉田（原子力エンジニアリング），佐藤（発電設備技術検査協会），高次（三菱重工業），高取（三菱重工業），原田（原子力エンジニアリング）（計 8 名）

委員代理者：福永（九州電力，猿渡代理）（計 1 名）

欠席者：佐藤（北海道電力），大高（原子力安全基盤機構）（計 2 名）

事務局：大滝（日本電気協会）（計 1 名）

4. 配付資料

資料 7-1 SG 伝熱管 ECT 検討会 委員名簿

資料 7-2 第 6 回 SG 伝熱管 ECT 検討会議事録（案）

資料 7-3 JEAG4208 における現行 / 改定案の比較表

資料 7-4 原子力規格委員会 構造分科会 平成 23 年度活動計画（案）

5. 議事

（1）会議定足数の確認について

委員総数 11 名に対して本日の出席委員数は 8 名，代理出席 1 名であり，検討会決議に必要な委員総数の 2/3 以上の出席が確認された。

（2）前回検討会議事録（案）の承認

事務局より，資料 7-2 に基づき前回検討会議事録（案）について，前回検討会終了後に配布した議事録に対してコメントがあり，それを反映したものを開催案内と共に配布した後，特にコメントが無かったことの紹介があり，承認された。

（3）JEAG4208-2005 改定案の検討

泉田委員より，資料 7-3 「軽水型原子力発電所用蒸気発生器伝熱管の供用期間中検査における渦流探傷試験指針（JEAG4208）における現行/改定案の比較表」に基づき改定案が紹介された。

各委員から出された主なコメントは以下の通り。

・ P4/22 表 2-1 と表 2-2 の表題を変更することのだが，2 つの表は同じ項目しか表示していないのであれば，1 つの表として扱って良いのではないか。

対応方法を検討する。

・ P4/22 表 2-2 のインテリジェントプローブでは，「24 組の局部コイル（薄膜アレイ 2

コイル方式の検出コイルと斜め励磁コイルの組合せ)を周方向2段に配置」と表現されているのに対して、スマートアレイプローブは、「1周16個×3段、計48個のパンケーキコイルを配置」と表現を合わせる必要はないか。

コイルの構造が異なり、インテリジェントプローブは1組の局部コイル中に励磁用と検出用コイルの組合せが固定されているのに対し、スマートアレイプローブでは48個のパンケーキコイルの組み合わせが変わっていくため、それぞれを適正に表現している。

- ・P4/22 表 2-1 の回転プローブのコイル寸法欄に記載されている「伝熱管接触方式」は、コイル寸法そのものを記載しているのではないので、オリジナル通りにカッコ付きの記載とした方が良い。

拝承。

- ・P2/22 解説 2-1 と P6/22 解説 2-9 で引用している ASME2010 年版については、既に 2011Addenda が発行されているので、最新版としてそれを記載した方が良いのではないか。

2011Addenda の内容を確認し、問題なければそちらに変更する。

- ・P6/22 2.4(4)は、解析装置の機能を示しているので、「表示画素数」という表現は適切ではないのではないか。

「表示画素数」は「デジタル表示精度」に修正する。

- ・P17/22 解説 3-18 で、SNT-TC-1A(2006)を引用しているが、2009 年版が発行されたように記憶しているので、最新版としてそちらを記載した方が良いのではないか。

2009 年版の内容を確認し、問題なければそちらに変更する。

- ・P17/22 解説 3-18 で、「レベル 相当の者：装置を設定し、かつ校正した・・・」は「・・・かつ校正し、また・・・」のように読点を追記する。また、「レベル 相当の者：・・・レベル を訓練し試験できなければ・・・」は「・・・レベル を訓練し、試験できなければ・・・」とする。

拝承。

- ・P18/22 3.3(1)の3行目で、「レベル」と記載されているが、SNT-TC-1A ではこのままで良いが、JIS Z 2305 では算用数字の「1」を使用しているので、「レベル (レベル1)」と表現した方が良いのではないか。

内容を説明すれば分かるので、このままとする。

- ・P18/22 3.3(1)で、試験員の有する技術レベルとして「JIS Z 2305」は必須としていないのか。

基本的に、「JIS Z 2305」は必須ではなく、「SNT-TC-1A」等の内容を満足する社内認定要領に従っている。

- ・P18/22 3.3(1)で、引用している規格・基準の年版表示をしないのか。

資格認定要領で引用している年版が各事業者によって異なるので、従来通り年版表示はしないこととする。

- ・読点がコロンになっていないところが見受けられるので、修正すること。

拝承。

(4) 平成 23 年度活動計画の変更について

資料 7-4 に基づき JEAG4208 の平成 23 年度活動計画(案)について確認した。

各委員から出された主なコメントは以下の通り。

- ・平成 22 年度活動実績欄及び平成 23 年度活動計画欄の「3/4 インチ」の数値は半角にする。

拝承。

なお、平成 22 年度活動実績欄に、平成 23 年度上期までの実績も追記することになったため、事務局で 8 月 12 日と本日の 2 回検討会を開催した実績を記載したものを各委員にメール配布し、確認することとする。

6. その他

(1) 資料 7-3「JEAG4208 における現行/改定案の比較表」のコメント反映版については、今週中を目途にメールで各委員に配信し、確認することとする。

(2) JEAG4208 本文の改定案は、比較表と併せて泉田委員が作成する。JEAG4208-2005 本文の電子媒体(MS-Word 版)について、委員各位に以前に配布されていないか事務局で確認し、配布されていない場合は配信する。

(3) 構造分科会は 11 月 28 日(月) 10:30~ の予定であり、その場で JEAG4208 改定案を中間報告する予定とする。原子力規格委員会は 12 月 19 日(月) 13:30~ で、その時に JEAG4208 改定案を中間報告する予定とする。

(4) 中間報告に使用する資料は、JEAG4208 における現行/改定案の比較表、JEAG4208 本文の改定案、スマートアレイプローブの機能概略を説明できる資料の 3 点を予定する。

この内、スマートアレイプローブの説明資料は、保全学会誌に掲載した技術論文のコピーを配布することとし、事務局で保全学会に使用の可否を確認する。もし、使用不可となった場合は、保全学会誌にも掲載されている広告を使用することを事務局で検討する。

スマートアレイプローブの説明資料と一緒にインテリジェントプローブの資料も配布するかどうかについては、事務局にて検討する。

(5) 次回の検討会は、12 月 8 日(木) 13:30~17:00(日本電気協会 4 階 D 会議室)の予定とするが、構造分科会に中間報告した状況で、最終的に実施要否を判断することとする。

以上